

浜松市教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和4年7月25日(月)
14時00分～14時50分
- 2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階
教育委員会室
- 3 出席状況 出席者
教 育 長 宮 崎 正
教育長職務代理者 安 田 育 代
委 員 黒 柳 敏 江
委 員 田 中 佐和子
委 員 神 谷 紀 彦
委 員 鈴 木 重 治
- (職員)
学校教育部長 田 中 孝太郎
学校教育部次長(教育総務課長) 山 本 卓 司
学校教育部次長(教職員課長) 水 野 貫 一
学校教育部参事(教育審議監) 小 畑 多佳子
指導課長 石 野 政 史
市立高等学校長 宮 田 治 幸
- (事務局職員)
教育総務課長補佐 川 副 哲 士
教育総務課総務グループ長 笹 ヶ 瀬 優
教育総務課主任 高 里 子
- 4 傍聴者 2名
- 5 議事内容 別紙のとおり
- 6 会議録作成者 教育総務課 高 里 子
- 7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録
録音の有無 無
- 8 会議記録
(教育長) 令和4年7月25日の浜松市教育委員会を開催する。

傍聴についてはどうなっているか。

(事務局) 2人から傍聴申込をいただいている。

(教育長) 許可するというので、よろしいか。

(異議なし)

(教育長) 許可する。

(教育長) 前回会議録の報告及び承認は回覧をもってお願いする。

本日の会議録署名人は安田委員と神谷委員にお願いする。

会期は本日限りである。

本日は、議案が2件、報告が1件ある。

最初に、第30号議案「令和5年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」指導課から説明をお願いする。

(指導課長) 第30号議案「令和5年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」説明する。小学校及び中学校において使用する教科用図書の採択については、令和4年度においては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、令和3年度と同一の教科書を採択することになっている。したがって、小学校及び中学校においては表2の令和3年度の教科用図書と同一のものを使用することになる。

説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 小中学校の教科書については、別紙1のとおり令和3年度に採択し、令和4年度に使用している教科書と同一のものを採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

次に、第31号議案「令和5年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」市立高等学校から説明をお願いする。

(市立高等学校長) 第31号議案「令和5年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」説明する。

別紙7ページをご覧ください。採択において、「提案理由」「採択内申」「採択方法」については記載のとおりである。また、「採択の手順」については、①から④の手順で進めた。この手順によりとりまとめた資料が、別紙1「令和5年度市立高校使用教科書採択」の一覧となる。この資料は、教科ごと別紙1の1から1の9まで続き、10ページに採択理由の補足説明がある。その後に参考として、別紙2「過去3ヶ年の採択状況」を掲載している。なお、この後の説明で、「継続」、「新規」という言葉が出てくるが、「継続」の教科書とは、生徒が既に購入し、授業で使っている教科書を来年度も引き続き使用すること、「新規」の教科書とは、その学年で初めて使用することを指す。また、全体の概要・ポイントとしては、高等学校の新しい学習指導要領が、今年度の高校1年から学年進行で実施され、従来と内容が大きく変わる一方、来年度の高3年の現行課程の教科書は、各出版社とも改訂版等の新たな発行はないという点である。今回採択内申にあげた令和5年度使用教科書は、3学年全てを合わせて68冊で、その内訳は、1年生が18冊、2年生が25冊、3年生が25冊となっている。また、全68冊のうち、来年度新課程となる2年生を中心に、全部で24冊が新規での採択内申になる。一方、既に新課程となっている1年生及び来年度も旧課程の3年生を中心に、継続使用の教科書が全部で19冊ある。

(教育長) それでは審議に入る。審議は1教科ずつ行う。1教科の説明後、ご意見ご質問を尋ねる形で進めていく。

(市立高等学校長) はじめに、国語について説明する。別紙1の1ページをご覧ください。表の中で、左欄外に通し番号があり、その左側に星印があるものが新規の教科書である。また、中ほどに継続使用欄、採択理由項目欄、一番右側の列に主な採択理由欄がある。新課程1年生の「現代の国語」と「言語文化」は、昨年度に引き続いて、ともに大修館の教科書を採択内申する。採択理由は、教材の配列が自主的・自発的に学習を進めやすいように、テーマを発展させるように工夫されていること、また、基礎的で理解しやすい教材が選ばれているため、高等学校最初の1学年に適していること等である。新課程2年生では、文系は全員「論理国語」「文学国語」「古典探究」の3科目を、理系は全員「論理国語」「古典探究」の2科目を履修するが、文系も理系も、同一科目は同じ教科書を新たに採択内申する。「論理国語」は、明治書院の「精選 論理国語」を新たに採択内申する。採択理由は、実用的な文章や現代的な課題を取り扱った教材が多く、読み比べができる想定の内容構成のため、生徒が学びやすい工夫がされている点である。「文学国語」は、東京書籍の「文学国語」を新たに採択内申する。幅広いジャンルから選ばれた作品と作者が収録され、生徒が文学への興味関心を喚起させやすい構成になっていることが主な採択理由である。「古典探究」は、大修館の「古典探究(古文編)」と「古典探究(漢文編)」を採択内申する。幅広いジャンルや時代から偏りなく収録されており、内容も本校生徒の学力に相応しく、読み比べができるよう工夫された内容構成であることが採択内申の理由である。旧課程3年生の「現代文B」「古典B」は、現在2年生で使用している教科書を継続使用する。教材の配列がテーマを発展させるように工夫されており、内容も比較的抽象度が高い文

章が選ばれ、大学入試への対応、発展的読書への導入がされていることが主な採択理由である。また同じく3年生の「国語表現Ⅰ」は、選択履修となっており、第一学習社の「高等学校 改訂版 国語表現」を採択内申する。選択科目の特性を生かし、親しみやすい表現教材、日本語理解のための文章が豊富であること。手紙やディベート、小論文まで具体的な実践課題での解説が充実していることが主な採択理由である。

国語の説明については以上である。

(教育長) 国語について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、国語に関する質疑を終了し、採決に入る。国語については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、地歴公民の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 地歴公民について説明する。地歴公民は全部で14冊である。新規の採択内申は、新課程1年生の「地理総合」の教科書1冊と新課程2年生で使用する教科書4冊の合計5冊である。他の8冊は、昨年度までに既に採択内申されたものである。新課程1年生の「地理総合」は、帝国書院の「新地理総合」を新規に採択内申する。図表が豊富で理解しやすく、学習項目が整理され、配列が分かりやすく工夫されていること、また、1年生でも取り組みやすい探究活動が数多く示されていること、必履修科目として基礎・基本の定着や理解・習得に配慮されていることが採択内申した主な理由である。また、「地理総合」では、昨年度に既に採択内申されている帝国書院の「新詳高等地図」を引き続き採択内申する。見開きできる地域が広く、色彩も鮮明かつ地図記号等が精選され、生徒が様々な地理的事象を読み取りやすくなるよう工夫されている点が主な採択理由である。今回、教科書と地図帳の出版社を揃えたことで、より効果的な活用が可能になると考える。新課程1年生の「歴史総合」は、昨年度に引き続き、第一学習社の「歴史総合」を採択内申する。資料が豊富で生徒の探究活動がしやすい工夫がされていること、また、教科書本文の構成や発問などが工夫され、生徒の知的好奇心や歴史への理解に対する工夫がなされていることが主な採択理由である。2年次以降の世界史探究、日本史探究の学習への接続も大切な視点と考える。次に新課程2年生についてである。「地理総合」では、帝国書院の「新詳地理探究」を新たに採択内申する。図表が豊富で生徒が理解しやすく、自然地理分野の記述が特に充実していることから、理系選択科目として学習に向いていることが採択内申した主な理由である。地図帳は同じく帝国書院の「新詳高等地図」を継続使用する。「世界史探究」は、山川出版社の「新詳世界史」を新たに採択内申する。内容が正確で安定

した記述が理解しやすく、写真が多く掲載されていることで、生徒の理解を助け、更に興味・関心を引く工夫がなされている点、また、生徒の探究活動を助ける資料も豊富な点が採択内申の主な理由である。「日本史探究」は、同じく山川出版社の「新詳日本史」を新たに採択内申する。内容が豊富であり、生徒の知識習得のために効果的であること、また、単元ごとの問いや、各章末のまとめを通して時代を俯瞰する態度を養うことができる点が主な理由である。公民科の必修科目として新たに開設された「公共」は、東京書籍の「公共」を新たに採択内申する。内容が精選されていて、生徒各自が課題を見つけて、解決する能力を養う工夫がされている点が主な採択理由である。次に旧課程の3年生についてである。本校では、2年生と3年生の2年間継続して、理系は「地理」を、文系は「世界史」か「日本史」を履修することになっている。したがって、3年生の「地理B」「世界史B」「日本史B」の教科書は、全て2年生からの継続使用となる。「地理B」と「地図帳」は、いずれも帝国書院の教科書を採択内申する。基礎・基本の理解や習得の徹底に配慮された構成で、理系の生徒でも学びやすくなっている点が主な採択理由である。「日本史B」「世界史B」については、山川出版社の教科書を引き続き採択内申する。いずれも教材が系統的・発展的に組織され、時代の流れを大きく捉えやすく、生徒の学びに適した内容である点が主な採択理由である。また、同じく「現代社会」についても、1年次の教科書の継続使用となり、東京書籍の「現代社会」を引き続き採択内申する。基礎から発展的な内容まで網羅されていて、図表・記述が分かりやすく、生徒にとって理解しやすいものになっている点が主な採択理由である。

地歴公民の説明は以上である。

(教育長) 地歴公民について、ご意見、ご質問はあるか。

(田中委員) 文系・理系の地理歴史の選択の説明について、再度伺いたい。

(市立高等学校長) 旧課程の3年生については、2年生と3年生の2年間継続して文系は「世界史」か「日本史」を履修し、理系は「地理」を履修するようになっている。

(神谷委員) 1年生の「地理総合」において、令和4年度は二宮書店を採択し、令和5年度は帝国書院を新規採択内申とのことだが、継続使用が多い中で、1年で採択会社を変えるとするのはあまり例が無いように思う。帝国書院に決めた、より良い点を教えていただきたい。

(市立高等学校長) 記述が明確であるということと、図表が豊富で配列が分かりやすい点を評価した。

(神谷委員) 1年間で教科書を変えるというのは、特に問題はないのか。

(市立高等学校長) 特に問題はない。

(教育長) それでは、地歴公民に関する質疑を終了し、採決に入る。地歴公民については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、数学の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 数学について説明する。数学は全部で6冊である。新規の採択内申は新課程1年生の「数学B」、新課程2年生の「数学Ⅱ」「数学C」の3冊である。他の3冊の教科書は、昨年度までに既に採択内申されたものである。新課程1年生で使用する「数学Ⅰ」「数学A」「数学B」の計3冊については、新規採択内申する「数学B」とともに、数研出版の教科書を採択内申した。例題やその解法の解説について、計算の経緯や背景が的確に示されており、生徒が問題を解くにあたり、見通しを掴みやすくなっていること、例題が精選されており、生徒の自発的な気付きを促す良問が揃っていること、各単元の終わりに考察が1ページにまとめられており、振り返りの学習も進めやすいことなどが採択内申の主な理由である。新課程2年生が使用する「数学Ⅱ」「数学C」も数研出版の教科書を採択内申する。2冊とも新規の採択内申であるが、1年生の時に数研出版の教科書を使用した生徒が、使用することになる。同じ会社にすることで、学習指導方法を継続することができ、生徒・教員の双方に利点があると考えられる。旧課程3年生の「数学Ⅲ」も、やはり2年生からの継続使用で、同じく数研出版の教科書を採択内申する。

数学の説明は以上である。

(教育長) 数学について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、数学に関する質疑を終了し、採決に入る。数学については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、理科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 理科について説明する。理科は全部で15冊である。新規の採択内申の教科書は、新課程2年生で使用する教科書のうちの6冊である。他の9冊の教科書は、昨年度までに既に採択内申されたものである。本校では、1年生で「物理基礎」

「生物基礎」の2科目を履修し、2年生で「化学基礎」を履修し、必修である理科基礎科目の3科目を履修する。新課程1年生の2科目のうち「生物基礎」は、数研出版のものを昨年度に引き続き採択内申する。高校に入学したばかりの1年生に対して、基本的な内容が不足なく収録されている。また近年、スマートフォンで画像や動画を視聴して学習内容を深められる工夫が各社で取り入れられているが、この教科書は特に充実しており、「動き」を扱う生物の学習として活用できることが主な理由である。「物理基礎」についても、同じく数研出版のものを昨年にも引き続き採択内申する。生徒が自主的に学習する上で、要点整理が図解で分かりやすくまとめられており、例題が多く発展的な内容まで含まれ、理系に進む生徒にとっても十分に理解を深めることができる。次に新課程2年生についてである。2年生の生物科目は、1年生から継続履修する文系の「生物基礎」と、理系が新たに選択する「生物」という2科目で構成されている。「生物基礎」は今年度の1年生が使用している数研出版のものを継続使用する。理系の「生物」も数研出版のものを新たに採択内申する。1年次の「生物基礎」と同一の出版社であることから、生物学用語の統一がとれ、円滑に学習に取り組める点、他の教科書に比べて記述内容と項目の配置が分かりやすい点が主な理由である。2年生の化学科目は、文系・理系共に履修する「化学基礎」と、理系のみが選択履修する「化学」があるが、どちらも数研出版の教科書を新たに採択内申する。「化学基礎」は表記が見やすく、学習内容の把握が容易であること、要点がコンパクトにまとめられており、重要事項が理解しやすく、適切な難易度の練習問題により、生徒の理解の深度を深められることが主な採択理由である。「化学」は、内容表記が適切かつ精選され、大学受験に必要な内容が網羅され、学習しやすい構成になっている点、豊富な図や表が内容に適切に対応し、映像やアニメーションで確認できるよう配慮されていることが主な理由である。2年生の物理科目は、理系が選択履修する「物理」である。1年生で学習した「物理基礎」との系統性を考慮し、数研出版のものを新たに採択内申する。大学入試を意識した幅広い内容が掲載され、要点が整理された見やすい図解が掲載されている点、各単元の終わりに思考・判断・表現に関する課題が配置され、学習者自身が学習前後の理解度を測れる工夫がされている点が主な採択理由である。2年生の文系選択科目である「科学と人間生活」では、東京書籍の教科書を新たに採択内申する。理科があまり得意でない生徒に対して、表記が見やすく、学習内容の把握を容易にしている点、学習内容と身近な生活との関わりについて、コラムや参考事項が豊富に記載され、重要事項の理解を助けている点、各項目ごとにQRコードが付され、リンク先にも学習を促進するコンテンツが収録されている点などが主な採択理由である。最後に、旧課程3年生についてである。旧課程の3年生は、全て2年生で使用した教科書の継続使用である。

理科の説明は以上である。

(教育長) 理科について、ご意見、ご質問はあるか。

(神谷委員) 数研出版が多い中で、「生物」だけ第一学習社を継続使用とした理由は何か。

(市立高等学校長) 第一学習社については、図解や動きが分かりやすい点が他の教科書よりも高く評価した点となる。

(神谷委員) 今の1年生は、1年次に数研出版の教科書を使用し、2年次に別の出版会社の教科書を使用することになるが、出版会社が変わっても分かりやすい方を重要視したということか。

(市立高等学校長) 「生物」については、生き物として「動き」を扱う科目であることから、図解や動きが分かりやすいという点を高く評価した。

(安田委員) 数学も理科も数研出版が多いという印象があるが、数研出版は理数系を得意としている出版社なのか。

(市立高等学校長) 数研出版については、数学や理科について本校の実態と教科書の作りが合っているという点で採択内申が多くなっていると思われる。

(教育長) それでは、理科に関する質疑を終了し、採決に入る。理科については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、保健体育の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 保健体育について説明する。2冊とも昨年度までに、既に採択内申したもので、新課程2年生で使用する教科書は、今年度の1年生からの継続使用となる。2冊とも大修館の教科書とした。見開きで1授業時間分相当の内容になっており、週1時間しか配当されていない「保健」の授業において、見開きで完結する構成は、生徒が学習を進めやすい点で優れている。また、適切な内容が精選されて取り上げられていることも採択内申した理由である。

保健体育の説明は以上である。

(教育長) 保健体育について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、保健体育に関する質疑を終了し、採決に入る。保健体育については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、芸術の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 芸術について説明する。芸術は全部で13冊である。高等学校の芸術は、音楽、書道、美術の3つの科目からなり、どれか1つを生徒が選択して履修する。新課程1年生用の教科書が全部で4冊、新課程2年生用が3冊、旧課程3年生用が6冊である。新課程2年生用の3冊が新規の採択内申のもの、それ以外の10冊は昨年度までに既に採択内申されたものである。全員が選択履修する新課程1年生の「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」「美術Ⅰ」については、4冊とも昨年度に採択内申されたものである。「音楽Ⅰ」は教育芸術社の教科書を採択内申する。音楽の基礎的事項を網羅し、系統的かつ発展的に構成されていて、本校生徒の実態に合っていると判断できる。「書道Ⅰ」は2冊あり、ともに教育図書社の教科書を採択内申する。2冊とも図版が大きくかつ鮮明で、作品の解説が分かりやすく、生徒が主体的に学べる構成になっていること、実技学習で狭い机上のスペースを有効利用できる装丁であること等が主な採択理由である。「美術Ⅰ」は日本文教出版の教科書を採択内申する。美術資料が大変充実し、作品の技術的な解説も多く掲載されているため、生徒の興味・関心を高め、授業中の活用が期待できる点が主な採択理由である。新課程2年生の選択科目である「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は系統性を重視して、各科ごとに今年度の1年生と同じ出版社の教科書を新たに採択内申する。同じ出版社の教科書を使用することで、扱う教材や作品に偏りがないよう生徒に対応する。旧課程3年生の選択科目である「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」「美術Ⅱ」「美術Ⅲ」「書道Ⅱ」「書道Ⅲ」は、それぞれ科目ごとに、昨年度の1年生、今年度の2年生と同じ出版社の教科書を採択内申する。一方「音楽Ⅲ」については、音楽之友社の教科書を昨年を引き続き採択内申する。音楽大学等への進学希望者が多く履修するこの科目は、音楽を専門的に勉強する生徒に対して、音楽の分析や創作課題などが豊富に収録された内容の教科書が適していることが採択理由となる。

芸術の説明は以上である。

(教育長) 芸術について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、芸術に関する質疑を終了し、採決に入る。芸術については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、英語の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 英語について説明する。英語は全部で6冊である。新規の採択内申は、新課程2年生の2冊であり、他の4冊は昨年度までに既に採択内申されたものである。新課程1年生の「英語コミュニケーションⅠ」「論理・表現Ⅰ」については、2冊とも昨年度に採択内申されたものである。「英語コミュニケーションⅠ」については、桐原書店のものを採択内申する。デジタル教材が充実しており、生徒自身で学べる学習素材が多いこと、英文が読みやすく配列がされ、授業中に生徒同士が互いにコミュニケーションが多くとれるよう、活動が明記されていることが主な理由である。「論理・表現Ⅰ」については、昨年を引き続きいわずな書店のものを採択内申する。各英文の語彙がリスト化され、教科書と同じ例文が掲載された副教材が用意されており、生徒が自主的に学習を進めやすくなっている点、構成がシンプルに作られており、1年生が学びやすい配慮がされている点が主な採択理由である。新課程2年生の「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅱ」については、継続的な指導のため、科目ごとに1年生の時と同じ出版社のものを新たに採択内申する。「英語コミュニケーションⅡ」は桐原書店の教科書を新たに採択内申する。生徒の興味を惹くような英文の内容である点、新出語彙が繰り返し出てくることで知識の定着につなげられる点、英文の難易度が本校の2年生用として適切である点が主な採択理由である。「論理・表現Ⅱ」は、いわずな書店のものを新たに採択内申する。教科書に準拠した文法書と正確にリンクしており、授業や自主学習を進めやすく、例文も身近な内容で親しみが持てる点が主な採択理由である。旧課程3年生の「コミュニケーション英語Ⅲ」は、継続的な指導のため、引き続き数研出版の教科書を採択内申する。生徒の基礎・基本の理解や習得に対して配慮がされた内容であり、生徒の興味関心を高める構成となっている点、短い英文を何度も読ませることが効果的である点から採択内申する。同じく旧課程3年生の「英語表現Ⅱ」は、いわずな書店のものを継続使用する。

英語の説明は以上である。

(教育長) 英語について、ご意見、ご質問はあるか。

(田中委員) 教科書が変わると、必然的に語彙が増え、視点が全く違う感じの内容が掲載されると思う。生徒たちはやりにくいと思うが、違う観点や視点から文章を読んだり内容に触れたりすることが英語にとっては大切だと思われ、教科書を変えるのも良いと思う。

(教育長) それでは、英語に関する質疑を終了し、採決に入る。英語については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、家庭の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 家庭について説明する。家庭は全部で2冊である。新規採択内申のものではなく、2冊とも昨年度までに既に採択内申されたものになる。新課程1年生の「家庭基礎」は、教育図書のを昨年度に続いて採択内申する。男女どちらの生徒も学習内容に興味関心を持ちやすいよう内容構成が工夫されている。自己の生活を豊かにするために必要な学習内容が分かりやすく豊富な図表を用いて示されていること、生徒自ら課題解決的な学習が意図されており、主体的な学習活動が期待されることが主な理由である。旧課程3年生の選択科目である「ファッション造形基礎」については、昨年度と同じく実教出版の教科書を採択内申する。洋裁・和裁とも製作過程の図解が分かりやすく、生徒の実習に適していることが主な理由である。

家庭の説明は以上である。

(教育長) 家庭について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、家庭に関する質疑を終了し、採決に入る。家庭については、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。
続いて、情報の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 情報について説明する。情報は新規に採択内申する1冊である。2年次で全員履修する「情報Ⅰ」は、実教出版のを新たに採択内申する。各単元が講義と演習で構成されており、授業者による学習指導の違いが出にくく、講師を含めた情報特有の指導体制の中で、公平な評価ができると考えられる。また、巻頭や巻末の資料や実習用ソフトの操作方法の解説が充実しており、生徒中心の学習活動において、自ら調べて学習する教材として活用できることも評価できる。

情報の説明は以上である。

(教育長) 情報について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、情報に関する質疑を終了し、採決に入る。情報については、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

その他何かご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) まず各教科会で話し合いを行い、その後、教科用図書採択委員会の選択に基づき、今回の採択内申に至っているという説明があったが、教科会の話し合いの時等に県の動向や県の情報は確認しているのか。

(市立高等学校長) 独自に各所から情報を得ながら選択を行っている状況である。

(安田委員) 例えば、県立高校から異動されてきた先生と「この教科については県立高校ではこうだった」といった議論がなされると良いと思う。それが交流の良さだと思っているが、そのあたりはどうか。

(市立高等学校長) 異動により、そういった議論がなされることはあると考える。また、県と市において様々な研修を一緒に行っていることもあり、そういった場面でも情報の交換がなされているものとする。

(安田委員) 市立高校の良さを生かしつつ、これまで同様、県等と交流して情報交換等に努めていただきたい。

(神谷委員) デジタル教科書への移行計画や状況について伺いたい。

(市立高等学校長) 生徒が使うものについては基本的に従来の教科書の形だが、本校の場合、教員についてはタブレットやプロジェクターを使用し、副教材も含めたデジタル教材の活用が増えている。視覚や聴覚に訴えることは効果があるのと同時に、進学校として、授業の進度がある程度早くなるという効果もある状況である。

(神谷委員) まだ生徒の方にまでは至っておらず、しばらくはこのまま紙の教科書を使うということか。

(市立高等学校長) 小中学校では1人1台端末が進んでいるが、県立高校、市立高校についてはBYODという形で今年から来年にかけて変わっていく予定である。ただ、教科書そのものを端末で代替していくことは、現時点での情報にはない。

(教育長) 採択内申に挙がっている出版社とは紙ベースの教科書での採択・契約となるが、例えばデジタル教科書についても教科書としての扱いとなり、無償化の対象と認められるのかが気になる。

(学校教育部長) 小中学校に関して、最終的な結論はまだ国から出ていないが、デジタル部分については、有償という話になっている。現在、試験的にデジタル教科書の

導入を行っている状態である。

(教育長) ここで、報告事項に移る。

(報 告)

ア 令和5年度入学者選抜について

(市立高等学校)

(教育長) 以上で、本日の教育委員会を終了する。